

2017年5月19日

血液内科に、過去に通院・入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への検体及び診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] THP-COP療法におけるグラニセトロンからパロノセトロンへの制吐薬変更の効果

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 水岡 大策 薬剤部 薬剤師

[研究の目的]

悪性リンパ腫を持つ患者さんに対して、日常診療で行われている THP-COP (エンドキサン、テラルビシン、オンコビン、プレドニゾロン) 療法を実施し、制吐薬をグラニセトロンからパロノセトロンへ変更し THP-COP 治療法副作用の軽減目的で使用し治療向上に役立てる為

[研究の方法]

○対象となる患者さん

悪性リンパ腫の患者さんで、平成26年3月1日から平成29年3月31日の間に、血液内科に入院され THP-COP (シクロホスファミド、テラルビシン、オンコビン、プレドニゾロン) 療法を施行された方

○利用する検体・診療情報

診療情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果(白血球数 血小板数)経過表の食事摂取量、看護記録、NST(栄養サポートチーム)介入記録 広域抗生剤(ゾシン)等の使用の有無、カルテの経過表より化学療法前日から化学療法日6日間の医師又は看護経過表の食事量または NST 介入記録にて悪心嘔吐の評価を行う。この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[研究組織]

香川大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師 水岡 大策

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師 水岡 大策

電話 087-898-5111 FAX 087-891-2318